

## 主 題：クリスチャンの成長

聖書箇所：ピリピ人への手紙 4 章 8-13 節（新約 p. 355）

変わることをない喜びを持ち続けるために…

私たちは、これまで「喜びを失わない方法」というものについて学んできました。何故なら、それこそが今もなお多くの人々が求めているものであり、それと同時に、これこそが神様のみこころ（ピリピ 4：4 ⇒ 『いつも主にあって喜びなさい』・1 テサロニケ 5：16 ⇒ 『いつも喜んでいなさい』）でもあるからです。

確かに、私たちはいろんなことが原因で喜びを失うように思います。将来への不安、人間関係、飢えや貧しさ、苦しみなどによって…。しかし、パウロはそういった物すべての中にあっても、喜びを失うことがなかったですね。もし、喜びというものが様々な困難によって奪われるとするなら、パウロこそ喜びのないはずの人間でした…。しかし実際はどうであったかということ、そのパウロが教えてくれるのです、喜びを失わない方法というものを…。

キリスト者が成長するためには、どうすれば良いのか？

私がイエス様を救い主と信じた時、つまりクリスチャンになった時、私の内には喜びがありました。「神様のことを知ることができた。こんな罪ある自分を神様は愛してくださったんだ！今、自分は神様によって救われたんだ！…」そういう思いが、私の内にありました。そして、その喜びは何となくずっと続くものであると思いました。しかし、そうではありませんでした…。ある時には、どうしても無い程落ち込んだり、不安になったり…。ということがありました。やはり大きかったのは家族の死でした…。しかし今、その時のことを思い出してみますと、そういうことを通して、神様は私に対してご自身（＝つまり神様とは全てを導いてくださっている方であるということ）を示してくださり、私に対して主に信頼することを教えてくださったのだと思います。

今日はピリピ 4：8-13 を通して、クリスチャンが成長するために必要なことについて、皆さんと一緒に学びたいと思います。

## I・善に対して貪欲であり続ける（8 節）

8 節『最後に、兄弟たち』とあります。この言葉は 3 章 1 節にもありますが、パウロはいよいよこの手紙を閉じようとする訳です。しかし、最後にどうしてもこのことだけは言っておきたい…。そのような思いから、こういった言葉が出てきたのでしょう。

・『心を留めなさい』の意味…

（8 節を読む）『…そのようなことに心を留めなさい』という表現があります。この「心を留める」という言葉は「熟考する」「評価する」という意味の言葉で、ただ単に「目を向けなさい」「注意を払いなさい」以上の強い意味があるのです。

・『すべての～』とは、どういう意味で使われていますか？

4 章の初めで、パウロは教会内の不一致の問題について、個人名を挙げて警告しましたよね。そしてその後の、「主にあって喜びなさい」という命令…。しかし、彼はクリスチャンたちに対して、「教会内のことにだけ目を向けていれば充分なのです」とか、あるいは「自分が喜んでさえいれば、それで良い」とは言わなかったですね？8 節に、何度（6 回）も語られています『すべての（\_\_\_\_\_）』という言葉のパウロが使ったのは、教会内でだけ限定されるものではなく、ピリピ教会の彼らが目にする「すべての～」という意味なのです！

実際に、どんなことをパウロが挙げているかを見てみましょう。『すべての真実なこと』⇒「隠れていない」「本当・本物」の意。もちろん、この言葉はマタイ 22 章（16 節）やマルコ 12 章（14 節）ではイエス様に対して使われています。しかし、イエス様だけでなく、すべての真実なことに、私たちは目を向け、そしてよく考える必要があるのです。それが神様に喜ばれることか、どうかを…。

例えば、ある博士は「思い煩い」について調査しました。多くの人々が思い煩っている内容のうち、実際に考えるべき必要のあったものはわずか 8% だったそうです。残りの 92% は、思い込みに過ぎなかったり、何でもないことであったり、あるいは心配してもどうしようもないことについて考えていた、というのです。イエス様はおっしゃってくださいましたよね。「明日のことは心配するな」って。私たちが考え、気にかける必要があるのは、「神の国とその義」つまり、神様を神様（＝創造主、主権者）として正しく認め、その神様に喜ばれるように生きることだって！悪魔は言うかも知れませんが、「神様は本当

にそうおっしゃったのですか？」って。そうやってエバは惑わされましたよね。私たちクリスチャンは、本当のことだけに目を向けるべきなのです。それも、神様に喜ばれることだけに…。

『すべての誉れあること、すべての正しいこと』⇒『誉れ』…「尊敬に値する」「品位のある」の意（1テモテ3：8の執事の条件、謹厳）。『正しい』…「正義、公正」の意。尊敬に値する、そして誰の前であっても正しいことのみ、私たちは目を向け、注意を払う必要があるのです。しかし、時々、私たちはあまり意識しないで、尊敬に値しないことや善くないことをしてしまいます。

例えば、噂話です。教会内はもちろんですが、職場やご近所でそんなことがあれば残念なことです。デマ（＝悪口や根拠の無い噂話）やゴシップ（＝興味本位の噂話）は当然ですが、例えそれが事実であっても、その本人がそれをどう感じるか、その人が喜んでくれるのかどうか、そして何より神様が喜んでくださるのかどうかをよく考える必要があるのです。

『すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと』⇒『清い』…これは特に「道徳的な清さ」を指します。当時の人々も、現代と同様、いつも性的な不純への誘惑にさらされていたのです。『愛すべきこと』…「愛される」「親切的な」の意。『評判の良い』…「評判が良い」以外に「他人からの信望がある」の意。例え、この世の法律を犯してはいなくても、性的な清さを守ることや他人から評価されることを聖書は教えています。

『そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるなら』⇒パウロはこういったクリスチャンが目を留めるべきことを言った後、さらにもっと「良いと思われること」や人からある種の「評価されること」を求めます。

以上の項目は、当時のギリシヤの道徳家たちが掲げていたものと良く似かよっており、また当時の文献にも良く似たものが見られるという特徴を持っています。当時の人たちも、パウロもそういう中で生きていた…。だから知らないはずは無い。あえて、それを引用したのです。

だってそうでしょ？こういったものは教会の外には全く無いですか？そうでもないでしょ？だから、しっかりと、こういったこと（＝教会内のことにも、教会外のことにも）に関心を持ち、よく考えなさいと言うのです。良いと思われることに関して、あなたがたは決して無関心であってはならない。善に関して、あなたがたは貪欲でなくてはならない！教会の片隅で、じっとしているのではなく、遣わされた社会の中で大胆に生きること…、それをパウロは教えるのです。

・『兄弟たち』とは、神の観点から見てくれることを期待して…

その直前に、『兄弟たち』とあるのは、神の観点から見なさい、ということ。単に世の人が評価するからといって何でもかんでも求めてはならない。神様が正しいと評価してくださることを私たちは、この世の中からも求める必要があるのです！本当は、教会の中の方がずっと聖くて、この世の中からは何も見習うべき所なんて無い…。だって私たちは神様によって救われ、正しい基準と知識が与えられているのだから！そうパウロは言いたかったのかも知れません。しかし、現実には、ある場合はこの世の中の何かを見習うべき場合があるのです。

実際に、ピリピ教会には「いざこざ（教会員同士の対立）」のために、分裂の危機があった訳ですよ？…残念ながら、救われたクリスチャンであっても罪がまだ残っています。天に上げられるその時まで、完全にその罪から解放されることはないでしょう。

○参マタイ5：13－16

つまり、パウロがここで言いたかったことは、私たちクリスチャンとは、この世の常識の中でもしっかりと評価を受けるようなものであるべきである、ということなのです。罪は別として…

イエス様は、マタイの福音書の中で、私たちクリスチャンのことを「地の塩、世の（光）」と言われました。それに続く5：16には何とありますか？『このように、あなたがたの（光）を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの（良い行ない）を見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』

II・学んだことを実践する（9節）

・『実行しなさい』⇒喜びと大きな関係があるから！

次に9節をご覧ください。（9節を読む）『実行しなさい』という表現がありましたよね？実は、これがパウロの教える喜びと大きな関係があるのです。先程、私たちクリスチャンは、この世が評価するものに対しても、無関心であってはならないと学びました。もし神様の観点から見ても、評価すべきものがあるなら、それをしっかりと見据えて、行ないに移しなさいというのです。

・4：6『思い煩う』の意味…

面白いもので、ここのすぐ前にある4：6の「思い煩う」という言葉は、もともと「別々の方向に引っ張られること」を意味します。つまり、目標と現実が違えば、平安が乱れ、思い煩う、ということなのです。

○例例えば、アダムはどうだったでしょう？⇒アダムは、神様によって直接造られましたが、罪を犯す以前は間違いなく平安の中にいたことでしょう。もちろん、彼は罪を犯すべきではなかったのですが、しかし、彼が罪を犯した時に、平安を失い、聖い神様を恐れたのです。言い換えれば、あるべき姿と現実とが違った時に平安を失ったのです。

またカインは？⇒彼は何故、怒っていたのでしょうか？ある方はこう言うかも知れません。「神様がアベルのささげものにだけ目を留められたから。」しかし、そうではないですよ？原因は、神様にあったわけではなく、もちろんアベルにあったわけでもない。カイン本人にその原因があったのです。彼はそれを神様の前に悔い改めるべきであったのです。しかし、それをしなかった。…あるべき姿と現実とが違っていたのです。ペテロの場合を見てみましょう。ガラテヤ2：11-12をご覧ください。彼は、イエス様の復活を見、ペンテコステ以来、大胆に何者をも恐れなくて、イエス様の復活を宣べ伝えました。その時のペテロには恐れはなく、平安があったでしょう。しかし、この箇所をご覧くださいと、『割礼派の人々を恐れて…』という記事が載っています。明らかに、その時、ペテロには平安がなかったですよ？彼が、異邦人たちに対して取るべきでない距離を取ってしまった。そこに彼が平安を失ってしまった原因があるのです。

・『そうすれば』とあるのは、パウロは何を言いたかったのでしょうか？

ちょっとピリピ4：9をご覧ください。『そうすれば…』という言葉があるように、もし、あなたが不安に怯えているなら、もし、あなたが激情にかられて憤っているなら、その原因はあなた自身にあるのです。だって、あなたはそうならず済んだのに、自らの未熟さの故に、罪の選択の故に、平安を失ってしまったからです。聖書の中には大変な状況の中にあっても、平安と喜びとを失わなかった人たちがたくさんいますよね？彼らは何故、喜びを失わなかったのか？それは、彼らがいつも神様の前に正しい選択をしていたからです。詩篇にこうあります。『悪者には心の痛みが多い。しかし、主に信頼する者には、恵みが、その人を取り囲む。(詩篇32：10)』

今日、皆さんにお願いしたいのは、もう今後、自分が憤ってしまったからといって、不安になってしまったからといって、他人を責めて、自分はさも悪くなかったように考えるのではなく、自分のどこに問題があって、今、平安がなくなってしまったかを考えていただきたいのです。

「いや、あちらの方に落ち度がある」とか、「向こうがこんなことさえしなければ…」ではないですよ。ローマ12章に何とありました？『だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が(良い)と思うことを図りなさい。(ローマ12：17)』「自分はあの時にどうすべきだったのか？」「今、何故、自分は怒ってしまっているのか？」を考えていただきたいのです。そうすることによって、私たちは自分の過ちを知ることができ、次に同じ過ちに陥らないで済むかも知れないのです。

III・苦しみの中でも神様を見上げる(10-13節)

・11節『学びました』という言葉の意味…

次に11節をご覧ください。(11節を読む)『学びました』という表現。先程の例に挙げた人々も様々な誘惑の中にあった。パウロもそうです。信仰に限らず、「成長」というものは、一朝一夕ではないですよ。私も、子どもが生まれてくるのが待ち遠しい…。しかし、ちゃんと母親のおなかの中で大きくなってから生まれる、というごく自然な順番があります。パウロだって、多くの信仰の偉人と呼ばれる人たちだって、初めからそうであった訳ではないのです。パウロがいろんなことを通して、学び、成長させられたように、私たちも時間をかけて、いろんなことを通して成長することが必要なのです。

ヤコブ1：2-4(特に4節)をご覧ください。『その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。』とあるように、私たちは試練の中であって、忍耐するという通して成長していくのです。

・12節「知っている」とは、単なる知識以上のもの

12節でパウロは「知っている」という言葉を2回使っています。皆さんもご存知の通り、イスラエル人たちが「知っている」という時は私たちのように単なる知識ではなく、経験であるとか、もう少し深い理解を指します。パウロは実際に貧しい時も、裕福な時も、様々な状況を経験していましたよね。

・「秘訣を心得ている」の意味…

また、『秘訣を心得ている』とは「精通している」という意味の言葉なのです。ある教えの集団の中でもこの言葉が使われ、そこでは「秘伝を伝授される」とか「秘密を教わる」という場合にもこの言葉が使われたのです。つまり、神様が与えてくださる様々な経験こそは、素晴らしい「レッスン」なのです。それらを通して、私たちは成長させられる。神のなさることは何一つ、無駄も失敗も無いですよ？

ピリピ教会とパウロの間には、素晴らしい交わりがありました。しかし、15節をご覧くださいとピリピ教会はパウロに対して、その愛を具体的に表わす方法としての、献金やエパフロデトという援助者を送る

チャンスがこれまでありませんでした。私たちは如何でしょう？神様の前に、「自分はもっと成長したい。もっと神様に用いられたい。」という思いを、皆さんはお持ちでしょうか？もしそうなら、神様は確実にあなたを成長させてくださいます。しかし、もしあなたが、神様に対して前向きでないなら、私たちには思い通りにならないことに対する挫折やじぶんや他人に対する苛立ち、様々な不安が襲いかかってくるでしょう。しかし、それは神様からの裁きなどではありません。神様があなたを成長させようとして、あなたに今の状態が万全でないことを教えてくださっているのです。

神様はどのような人であっても、その救われた者を成長させてくださるのです。ちょうど、ピリピの1章で学んだみことばの通りです。『あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。(ピリピ1：6)』ですよ。しかし、例えば、犬を散歩させていても違いますよね？積極的に飼い主に従って喜んで散歩している犬と、無理やり、首輪を引っ張られて、散歩させられている犬と…。どちらの方が早いですか？どちらの犬の方が、喜んでいるのでしょうか？そして、どちらの方が、ご主人を喜ばせているのでしょうか？ぜひ、皆さんが、神様に喜ばれつつ、成長させられていくことを願いましょう。

今日のみことばからあなたへのチャレンジ

⇒今のあなたに、神様は何を教えてくださいましたか？

⇒あなたは神の前に、日々、成長していつている者でしょうか？